

第23回 さしがや保育園アスベスト健康対策等専門委員会 会議録

- 1 日時 平成22年1月21日(木) 午後7時30分～午後8時20分
2 場所 サークル室(文京シビックセンター12階)
3 出席者 専門委員会委員 内山巖雄委員長、名取雄司委員長職務代理、樋野興夫委員、薄田康広委員、前田峰子委員、永倉冬史委員、黒田健夫委員、長松康子委員
専門委員会幹事 藤田男女協働子育て支援部長、小須田資源環境部長、太田施設管理部長
区職員 久住保育課長、佐藤予防対策課長、中村施設管理課長、土田保育係長、大澤主事

4 配付資料

- 資料第6号 心理相談・健康リスク相談の開催状況等について
資料第7号 委員名簿(案)
資料第8号 次期委員の推薦について
資料第9号 平成22年度の予定について
資料第10号 胸部X線写真の読影に関する保護者からの質問と回答(案)について

5 会議進行

(1) 心理相談・健康リスク相談の開催状況等について

- 保育課長 資料第6号のとおりである。
委員長 よろしいか。

(2) 来年度委員の承認について

保育課長 任期が満了となる委員の先生方から、それぞれ後任の方のご推薦をいただいている。資料第7号に示したとおりで、内山委員長からは、第1期に委員長職務代理をされていた安達修一先生、名取委員からは、ひらの亀戸ひまわり診療所の所長である平野敏夫先生、前田委員からは、臨床心理士の清水朋子先生、永倉委員からは、神奈川労災職業病センター専務理事の西田隆重先生をそれぞれご推薦いただいている。資料第8号は、それぞれの委員の方のご推薦状に記載されていた略歴等をそのまま転載したものである(事務局は、手を入れていない)。

皆様のご承認をいただければ、次期委員としてお願いしたい。

委員長 それぞれの委員の方から、ご紹介をお願いしたい。
まずは、私から。

安達先生は、ご存じのように、最初的时候からリスク評価を担当されていた。前期まで委員をなさって、2年間お休みいただいていたが、またお願いしてご快諾をいただいている。

名取委員 平野先生は、私のクリニックの所長で、一緒に石綿関連疾患の読影等をやっている。非常に造詣が深いので、適任ではないかと思っている。

前田委員 この方は、横浜国大卒業後、労働省に入ったが、その後神奈川県に移り、退職後逗子の相談室に勤務している。私がずっとやっていた神奈川県臨床心理学研究協会会長の後任をこの方をお願いしたので、この仕事もついでにお願いすることにした。大変力のある方で、よろしいかと思う。

永倉委員 西田さんは、神奈川労災職業病センターの事務局長をされていて、さしがやの件については、一番最初の頃に保護者から連絡を受けていた。私は、むしろ西田さんから動いてくれと頼まれて、神奈川で遠いということもあって、文京区については私が引き受けることになった。西田さんは、アスベストに関しては、長年取り組まれてきたので、適任だと思う。よろしく、お願いする。

委員 長 何かご質問ありますか？
ご異論がなければ、この4人の先生方に第3期の委員をお願いする。

(3) 来年度の予定について

保育課長 資料第9号のとおりである。今年度から始まった胸部X線写真の読影については、初めての試みということもあって、説明会に先生方にもおいでいただいたが、特に事務的に支障はなく、スムーズにX線写真を提出いただけたので、前回確認したとおり、事務局の方で、4月下旬か5月上旬にご案内と説明会の開催を行う。今回、来期の委員についてご承認がいただけたので、5月頃に日程調整をして、専門委員会の開催し、委嘱状を交付する。X線写真の読影については、8月頃に1回読影部会を開催する。今年度は、2回開催したが、提出の状況から見て1回で足りると考えられる(前回確認したとおり)。読影結果の通知に連動させて、9月頃に健康リスク相談・心理相談を実施する。10月頃に、読影結果の報告を兼ねて、専門委員会を実施する。最後に、2～3月頃、健康リスク・心理相談を実施する。事務局としては、来年度のスケジュールをこのように想定している。

委員 長 5月に新しい委員の方が入って、専門委員会が開催されるので、そこで変更があるかもしれないが、概ね年間のスケジュールということである。
我々の任期は、4月一杯ということなのか？

保育課長 3月までである。

委員 長 すると、4月以降は、委嘱状は出ていないが、任期は始まっているということか？

保育課長 そうである。

委員 長 今年は、読影の対象者は何人なのか？

保育課長 21人である。

委員 長 よろしいか。22年度の予定は、現時点では、このとおりということである。

(4) 胸部X線写真の読影に関する保護者からの質問と回答(案)について

保育課長 資料第10号に示したとおり、保護者の方から、胸部X線写真の読影に関して、内科医師の立場からの質問をいただいている。学校健診の胸部X線写真のコピーで、アスベスト肺の診断をするのはむずかしいのではないかと、むしろ、なるべくたくさんの方が直接レントゲン撮影に参加できるしくみをつくる方が、精度や費用の面、手間の面ですぐれているのではないかとということである。

これまでの議論の中でも、このような意見も出たところであるが、検討委員会報告書(平成15年12月)に従って、高校入学時のレントゲン写真を活用するというのと、レントゲンばく露によるリスクを最小限にすることから、このような取り組みとなった。回答については、検討委員会報告書をもとに、原案を作成している。

委員 長 今回、学校健診以外の写真の提出はないか？

保育課長 1件、骨折をしたとかで、直接撮影の大きな写真の提出があった。

委員 長 この回答でよろしいか。

では、専門委員会の文責で、回答をお願いする。

(5) その他

保育課長 今回、内山委員長、名取委員、前田委員、永倉委員の4名の方が、退任されるので、男女協働子育て支援部長の藤田より、一言お礼のご挨拶を申し上げたい。

藤田部長 3人の先生方(内山委員長、名取委員、永倉委員)には、平成11年のアスベストばく露が起きた直後から足かけ12年、また、前田委員には、専門委員会発足直後からということで、6年間に渡って関わっていただきました。諸先生方には、区としても教えていただくことが多かったし、保護者の方々も、この委員会のお

かけで安心されて、今後の希望を持つことができたのではないかと思います。長い間に渡る多大なご尽力に、区としてお礼を申し上げたい。ただし、これで最後だとは思っていない。次期の安達委員が復活されたように、ちょっと中休みをしていたら、また復活されることもあるのではないかと、思う。今後とも、直接の専門委員会は離れられても、区にご支援を賜りたく願います。

委員長
名取委員

順番に、コメントを。

11年くらい前に、新聞で報道されてしばらく経ったくらいのところで、お話があって、たまたま文京区に住んでいたのが、推薦された。今まで前例のない事件だった。海外を含めても文献に全く載っていない。実際どれだけの濃度であったのかもわからない状態であったので、どういうことが起きたのかというヒアリングをるところから始めて、数か月かかってようやく一定の再現ができた。今から思い返すと、若干不確かな部分というか、幅があるのかなとも思う。濃度の再現というのも、おそらく初めて行った。初めてづくしのことが多く、委員の方も、職員の方も、もちろん保護者の方も大変苦労されたと思う。多くの方のご努力があって、このような体制ができた。非常に不幸な事件ではあったが、その後のことについては、理想とは言わないが、ある程度のものはつくりけているのではないかと、思う。今後、新しい先生方には是非がんばって続けてもらいたい。

今、建物のアスベストの関係の仕事をしているが、アスベストの残っている既存の建物が非常に多く、その対策はまだ充分ではない。建築部局もしくは営繕部局には、モデル的な自治体になっていただきたいので、いろいろとご協力をお願いしていくこともあろうかと思う。

委員長

当時、国立公衆衛生院にいて、区から話があったが、初めて話を聞いた時には、「本当に区立ですか？」と言ってしまった。学校では全てアスベストは撤去していたので、何で今さら公立の保育園で、という思いだった。入江先生とふたりで父母会に説明に行ったのが最初である。当時は、父母会と区との関係は悪い状況だったので、次に委員会をつくると思ったときに、まずお願いしたのは、父母会から推薦されたメンバーが入るのであれば、お引き受けすると言った。その後もリスク・コミュニケーションをやっているが、やはり利害関係者が同じ席についてやらないとうまくいかない。それが、国や都のレベルではなく区のレベルで、委員会をつくってリスク・コミュニケーションをやったのは、私の経験からも非常に勉強になった。たぶん、大変になるだろうと思っていたが、結局、報告書を出すまでに5年かかってしまった。夜7時から公開で、今こういうことを議論しているということを理解していただきながら報告書をまとめたので、時間はかかったが、受け入れていただけたと思う。ばく露の再現実験をやるとか、いろいろなアイデアが出たので、大変勉強になった。その後、報告書の提言に基づいて、この専門委員会が設置された。全ての元園児が天寿を全うされるまで、区の組織が変わっても続けていくことになっている。これからも、まだまだ大変である。ひとつ心残りは、禁煙教育の推進で、アスベストと関係なくやるのか、アスベストと関連付けてやるのか、次の委員会で議論していただければ、と思う。

永倉委員

最初の頃は、保護者の方々から毎日のように電話がかかってきた。保育園に毎日通っていた気がする。区の説明会に西田さんと二人で参加したとき、工事現場の中に入ったら、青い石綿が散乱しているのを見て、これは大変なことだなと思った。ここから何ができるのか、ということで、保護者の皆さんと相談しながら、区にもいろいろお願いしてきた。検討委員会の中では、本当にいろいろなことを勉強させていただいた。その後、この経験を踏まえて、早稲田大学で世界会議を開いた。クボタの事件のときには、検討委員会の報告書が行政の担当者にはずいぶん読まれたという話を聞いて、長い間やってきたことがこんなふう役に立つのだなと思った。

先週、阪神の震災の15周年ということで、神戸の方で、子ども向けのアスベストマスクの備蓄を呼びかけるシンポジウムを行ったが、震災の経験者が多いので、反響が大きく、3百人くらいが集まった。シンポジウムの直前に、ある高校で、アスベスト問題がまだまだ残っていること、それを次の世代に伝えてほしい旨の授業を1時間程やったところ、非常に熱心に聞いてもらえた。高校生くらいにアスベストの話をきちんとすることは非常にいいことだと思うので、これからもそういう機会をつくっていきたいと思う。

前田委員 私はアスベストには全くの素人で、名取先生が我が家に夜いらして、こういう会があるからと誘われたときに、文京区で生まれ育ったということもあり、引き受けた。

たまたまではあるが、いろいろなことがつながると思う。クボタの事件が起きた直後、臨床心理学会の危機対応のシンポジウムが尼崎であったが、まさにクボタの工場の地元であった。そのあと、佐賀の事件の時も学会で行っていた。最近、今勤務している学校の先生と話をしたときに、アスベストの話に非常に関心を示したので、何故かと思ったら、教員になる前にクボタに勤めていたとのことである。いろいろ聞かれたが、私では何とも言えないので、何かの時は専門の方に紹介する、と言った。世の中には、気がつかないで被害を被っている方がいるのだと思った。

心理の仕事は、雲をつかむような話から始まることが多いが、だんだんやっていくと焦点が合ってくる。危機管理の問題も、災害時には待たなしで呼び出されるが、今回の場合、危機はあるが、目の前に災害が見えていないときにどう対応していくかという新しい取り組み方になると思う。

本日、傍聴にいらしている方が、私の相談の第1号で、そこで封印を解かれたような体験をしている。やはり、何かあったときに、介添え役として同席する仕事でもあると思う。行政の仕事だけをしていたのではわからない体験をたくさんさせていただいた。

委員長 それでは、この4人は、一度お休みさせていただくが、また復活することもあるかもしれないので、そのときはよろしくおねがいする。

以上